

## 第4回 「地方都市の魅力向上—立地適正化計画」講習会 開催報告

日時：令和4年6月17日（金）16：45～19：15

場所：Zoomミーティング

講師：外尾一則（佐賀大学名誉教授，北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者）

参加者：唐津市都市計画課3名，松野尾仁美（九州産業大学・准教授），永家忠司（大分高専・准教授），猪八重拓郎（佐賀大学・准教授）

<報告>

第4回講習会においては，人口増加・都市の成長，市街地の拡大を前提に組み立てられてきた都市計画制度が転換期にあることが示され，将来に向けた適正な都市計画の必要性について解説されました。また，今後発生しうる問題を事前に住民や企業に理解してもらう重要性のお話がありました。後半は夕張市の都市機能誘導区域の設定，ドイツ及びアメリカでの低密度居住地の緑豊かな住宅地への転換，災害危険性の高い地域でのオープンスペースなどの具体的な事例紹介がありました。

文責：松野尾仁美（九州産業大学 建築都市工学部，E-mail: matunoo@ip.kyusan-u.ac.jp）

## (第4回)

# 都市計画マスタープラン及び立適計画制度運用の課題 ーネガティブなイメージの将来像と計画手法の転換

1. 転換期を迎える都市計画
2. ネガティブな将来像への対応手段
  - **都市の将来像を実現するための適切な都市計画の選択**
3. 問題提示型プランの意義
4. 人口激減・衰退都市の事例ー夕張市のコンパクトシティ政策
  - **コンパクトシティ化の推進;市街地の計画的縮退を記したマスタープラン作成**
  - **福祉と住民意思の尊重**
  - **段階的な市街地のコンパクト化**
  - **立地適正化計画 2021年策定;将来都市構造の見直し**

## 5. ドイツ「縮小する都市の構築」

- プログラムの主要目標; 中心市街地強化、建築ストックの修復・保全、空き家の解消、縮小都市の価値向上
- 中小都市の事例; 住民主役のまちづくり、緑と住環境重視、都市構造のコンパクト化

## 6. アメリカの人口減少・衰退対応型都市計画の事例

- 低密度居住地方針のマスタープラン
- 新しい土地利用計画手法の導入
- 住民との合意に基づくビジョン策定

### ■資料作成者、連絡先

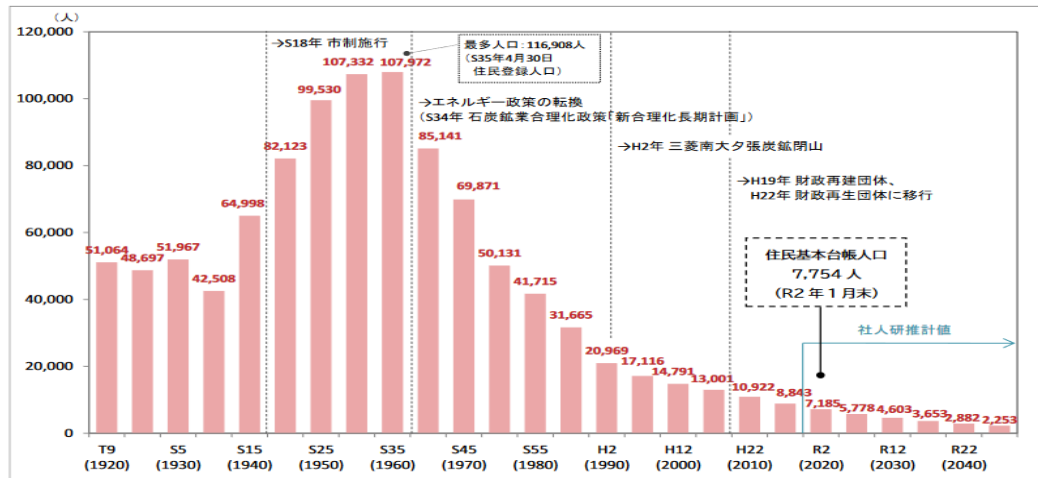
- 外尾一則; 佐賀大学名誉教授、北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者
- メールアドレス; [k-hokao@kitakyu-u.ac.jp](mailto:k-hokao@kitakyu-u.ac.jp)

# (参考) 夕張市における立地適正化計画策定の経緯と特徴

夕張市は1960年より急激な人口減少に見舞われたが、その厳しい傾向は近年、さらには将来にも継続している。

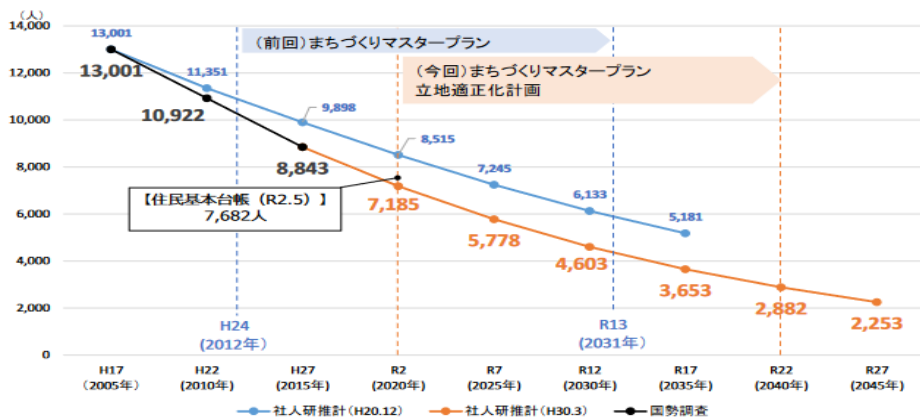
- 1995年に人口集中地区の基準を満たすエリアが消失し、市街地の存続、市街地の集約化が喫緊の課題となった。
- 都市計画マスタープランにおいて、段階的なコンパクトシティの将来像を描き、立地適正化計画において集約化の具体的手法を策定し、難解な集約的な都市構造の再編に挑戦している。
- 計画過程においてGIS等を用いた情報分析等を活用し、行政・市民・民間間の情報共有化と合意形成を実現している。

【図表①】総人口の推移と将来人口推計



(出典) 「第2期夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略(素案)」令和2年(2020年)3月, 夕張市

【図 将来人口推計】



(出典) 「夕張市まちづくりマスタープランー夕張市都市計画マスタープラン(都市計画の基本的な方針)ー」, 令和3年3月夕張市

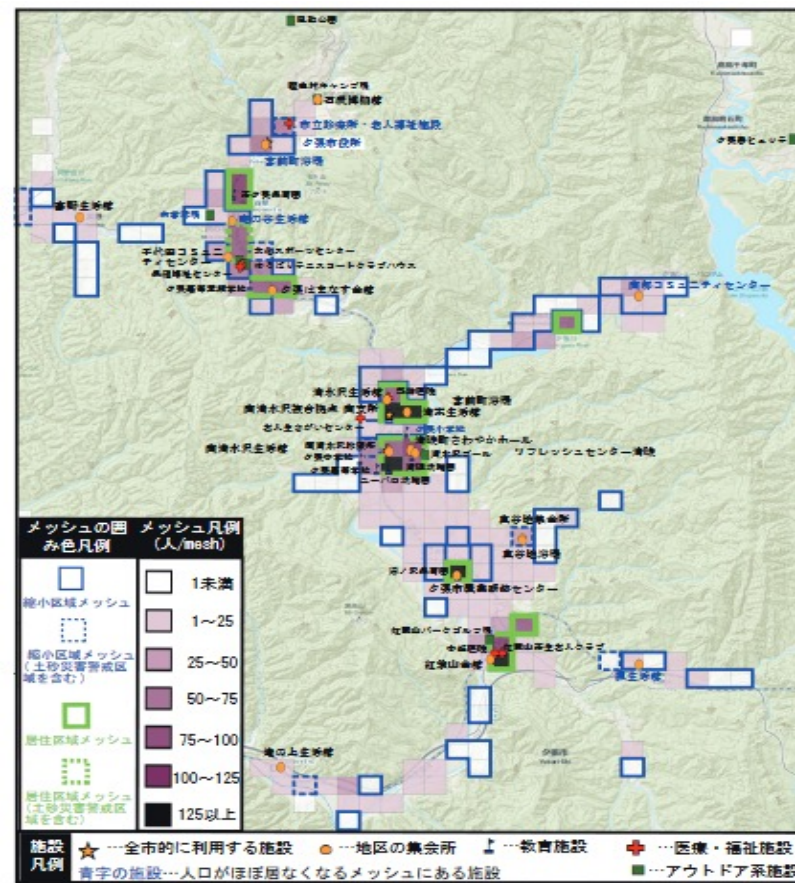


図4. メッシュのランク分けによる夕張市分析

(出典) 小原史、瀬戸口剛等、「人口減少都市における市街地集約によるコンパクトシティ夕張2040の提案 北海道夕張市における都市再編研究 その19」日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) 2019年9月

作成; 永家(大分高専准教授)